



トロイメライ

2025 年 7 月 12 日(土)ー2026 年 1 月 12 日(月・祝)



図1 ジョナサン ボロフスキー《私は夢みた》1983 年 紙にアクリル絵具、シルクスクリーン 196.5 x 248cm ©Jonathan Borofsky

【展覧会概要】

私たちは夢を見ます。夜ごと、あるいは街を歩きながら。

目に映る風景の色や、聞こえる音、触れているものの重さや温度などに普遍的な事実があったとしても、受け止め方は人それぞれ。嬉しいことがあれば世界が輝いて見え、悲しいことがあれば近くにいる人の声を遠くに感じることもあります。この気持ちと身体との相互作用は、今、確実に自身に起きていることではあるのに、夢をみているかのように曖昧で、とらえがたく、その実感を誰かと共有することも難しいものです。

夢とは眠るときにだけ見るものとは限りません。例えば美しい景色やメロディに心を奪われる瞬間や、小説、映画や舞台の物語に没入している時間に、あなた自身はどこにいるといえるでしょうか。デジタルの画面の中と、怪我をすれば痛みを感じる生身の身体との両方を行ったり来たりしている私たちにとって、いまや現実と架空を完全に切り離すことはナンセンスのようにも思えます。「現実(リアリティ)」とはどこかにあるものではなく、それぞれの実感＝「たしかさ」をたどる行為そのもの。まるで一枚ずつ見えないヴェールをかいくぐりながら歩みを進めるように、私たちは常に、幾重にも折り重なった夢を現実に見ている状態だといえるのかもしれない。

時にアーティストは、不確かなイメージをとらえようと多様な表現を試みてきました。彼らが思い描き生み出した作品は、私たちに新しいヴィジョンを見せてくれます。そして美術館では、収蔵庫の中で静かに眠っている作品を呼び起こすのは学芸員の役割ですが、どのような「トロイメライ＝夢見ごと」を立ち上げるのかは鑑賞者ひとりひとりにゆだねられます。希望、理想、幻想、無意識、眠り…。本展では、誰もが身近に感じながらもその多彩さゆえに謎めく「夢」、「夢を見ること」をキーワードに作品を紐解いてゆきます。

「トロイメライ」とは・・・

ドイツ語の「トロイメライ」は日本語に訳すと「夢のような」、「夢見心地」という意味。ロマン派の作曲家 ロベルト シューマンによる同名の楽曲(小品集「子どもの情景」の7曲目)は、恋人から送られた手紙の中で「時々あなたは子どもに見えます」と書かれていた言葉を思い出し、その余韻の中で作曲されたという逸話が残っています。ゆっくり歩くような単調な繰り返しの中に、天から優しく降りそそぐ光や、願い、一瞬の戸惑い、そして憧れへ向かう躍動感をも感じさせるのが特徴です。

図2 ジョナサン ボロフスキー《割れたピカソの夢》1990年 リトグラフ、シルクスクリーン 143.5 x 100.3cm ©Jonathan Borofsky



【展示作品】

■現代美術(予定)

カレル アペル、フランチェスカ ウッドマン、大竹伸朗、加藤美佳、アンゼルム キーファー、坂田栄一郎、シンディ シャーマン、崔在銀、名和晃平、奈良美智、ジョナサン ボロフスキー、増田佳江、宮脇愛子、ロバート メイブルソープ、森村泰昌、やなぎみわ、横尾忠則、マーク ロスコなど *会期中に展示替えを行います

■特別展示室 観海庵(予定)

加藤泉、狩野永徳、狩野探幽、徐霖、野村仁、円山応挙など *会期中に展示替えを行います



図3【初展示作品】
円山応挙《山水図屏風》(秋・部分) 江戸時代 六曲一双
紙本着色(2025年11月7日から2026年1月12日まで展示予定)

■常設展示、屋外作品

草間彌生《ミラールーム(かぼちゃ)》、奈良美智《My Drawing Room》、宮島達男《時の連鎖》、束芋《真夜中の海》、鈴木康広《日本列島のベンチ》、森村泰昌《輪舞(双子)》、李禹煥《関係項》、アンディ ウォーホル《キャンベルズ トマト スープ》、オラファー エリアソン《Sunspace for Shibukawa》、ジャン=ミシェル オトニエル《Kokoro》など



図4 ジャン=ミシェル オトニエル《Kokoro》2009年 ©Jean-Michel Othoniel 撮影:木暮伸也

【展覧会関連ワークショップ】

榎本浩子 「やわらかな時間」

日時: 2025年9月～11月 会期中、複数回のイベントを予定しています

「やわらかな時間」は、ゆるやかな”植物観察”を行うワークショップです。日々の出来事を題材に、弱さや傷つきやすさとその修復をテーマとして制作・活動を行う、群馬県出身のアーティスト榎本浩子と原美術館 ARC が協働で構想しました。彫刻作品が点在する美術館の庭の一角で、草花をただただ見つめ、少し変わった「植物日誌」に描き留める時間を過ごします。

「庭を見ているうちに植物を育てるようになりいつの間にか無気力な日々が過ぎ去っていった」と語る榎本。制作の下地となったその行為を疑似的に体験しながら、からだところの緊張をほぐしてみませんか。

* イベントの詳細については、決まり次第、当館ウェブサイトにてお知らせいたします。

榎本浩子 プロフィール

群馬県生まれ、現在同地を拠点に活動。女子美術大学大学院美術研究科修了。他者とのつながりや日々の出来事を題材に、弱さや傷つきやすさとその修復をテーマに制作や活動を行なっている。主な活動歴に「庭の記憶／土地の修復」(Art&Garden ねこぞ、大分、2023)、「クリテリウム 99 榎本浩子」(水戸芸術館現代美術ギャラリー、茨城、2022)、「この庭」(ゆいぽーと、新潟市芸術創造村・国際青少年センター、2022)がある。<http://hirokoenomoto.com>

【会期中のイベント】

■宮島達男「時の蘇生・柿の木プロジェクト」植樹 20 周年企画

2005 年に当館の庭園に植樹された「被爆 2 世の柿」。今年 20 周年を迎えることを記念し、小企画を開催いたします。

時の蘇生 柿の木プロジェクトについて <https://kakitreeproject.com/>



柿の木(2024 年 11 月撮影)

■プレス向けガイドツアー

7 月 14 日(月)11:00～(60 分程度)

■夏休みワークショップ

①7 月 19 日(土) ろうけつ染めでうちわをつくろう

講師: 大竹夏紀(染色アーティスト)

参加費: 2500 円

②7 月 20 日(日)、21 日(月・祝)折り染めでうちわをつくろう

参加費: 600 円

■開架式収蔵庫ガイドツアー

8 月 2 日(土) 11:00～(60 分程度)

参加費 1000 円、5 名

* 通常はメンバーシップ会員限定イベントですが、一般の方も参加できます

■担当学芸員による作品解説

8 月 2 日(土)14:00～(60 分程度)

参加費 500 円、10 名

* メンバーシップ会員は無料

■屋外作品ガイドツアー

9 月 27 日(土) 11:00～(60 分程度)

参加費 500 円、10 名

* メンバーシップ会員は無料

■対話型作品鑑賞会(協力:対話型アート鑑賞ラボ)

11 月 8 日(土)11:00～(60 分程度)

参加費無料、10 名

■学校の先生を対象とした鑑賞企画(無料見学・相談会)

7 月 21 日(月・祝)から 27 日(日)の 6 日間

入館料・参加費 無料

* 24 日(木)は休館日の為除外

* 要予約。遠足や校外学習など学校行事で当館の利用を検討している教職員を対象とします。事前に相談内容をメールにてお知らせください。

arc@haramuseum.or.jp

* 各イベントの詳細については当館ウェブサイトをご確認ください

【開催要項】

展覧会名 「トロイメライ」

会期 2025 年 7 月 12 日(土)から 2026 年 1 月 12 日(月・祝) * 観海庵は会期中展示替えあり

主催・会場 原美術館 ARC

開館時間 9:30 am—4:30 pm(入館は 4:00 pm まで)

休館日 木曜日(8 月中無休)、* 2026 年 1 月 13 日から 3 月中旬まで冬季休館

入館料 一般 1,800 円、70 歳以上 1,500 円、大高生 1,000 円、小中生 800 円

* 前売りオンラインチケット(日にち指定) https://e-tix.jp/haramuseum_arc/

* 原美術館 ARC メンバーシップ会員は無料、学期中の土曜日は群馬県内小中学生無料

住所 〒377-0027 群馬県渋川市金井 2855-1

Tel: 0279-24-6585 / Fax: 0279-24-0449

E-mail: arc@haramuseum.or.jp

ウェブサイト: <https://www.haramuseum.or.jp>

X: @haramuseum_arc

Instagram: @haramuseumarc

【広報用図版およびクレジット】



図 5



図 6



図 7



図 8



図 9



図 10



図 11



図 12

【図 5】奈良美智 《Eve of Destruction》2006 年 カンヴァスに油彩 117 x 91 cm ©Yoshitomo Nara

【図 6】増田佳江 《flower bed》2007 年 カンヴァスに油彩 145.5 x 112 cm ©Kae Masuda

【図 7】大竹伸朗 《網膜 #2 (紫影)》1988-90 年 写真、布テープ、プラスチック、木製パネル 250.8 x 180.8 x 7.3 cm ©Shinro Ohtake

【図 8】加藤美佳 《みんなのお墓》2006 年 カンヴァスに油彩 117.5 x 90 cm ©Mika Kato

【図 9】やなぎみわ 《無題 I》2004 年 ゼラチンシルバープリント 140 x 100 cm ©Miwa Yanagi

【図 10】フランチェスカ ウッドマン 《Seven Cloudy Days, Rome》1977-78 年 ゼラチンシルバープリント 25.4 x 20.3cm ©The Estate of Francesca Woodman, Courtesy George and Betty Woodman and Victoria Miro, London

【図 11】狩野永徳《虎図》桃山時代 一幅 紙本墨画 (2025 年 7 月 12 日から 9 月 1 日まで展示予定)

【図 12】《武蔵野図屏風》江戸時代 八曲一隻 紙本金地着色 (2025 年 9 月 5 日から 11 月 5 日まで展示予定)

【常設およびセミパーマネント作品】

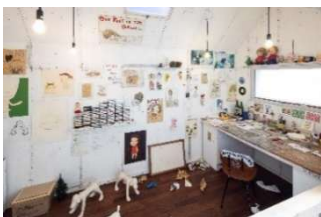


図 13

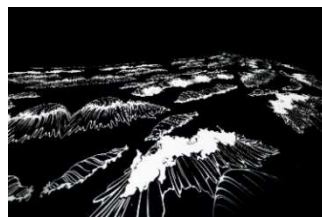


図 14



図 15



図 16

【図 13】奈良美智 《My Drawing Room》2004/2021 年 312.0 x 200.5 x 448.0cm ©Yoshitomo Nara

【図 14】束芋 《真夜中の海》2006/2008 年 ビデオインスタレーション ©Tabaimo

【図 15】草間彌生 《ミラールーム (かぼちゃ)》1991/1992 年 ミクストメディア 200 x 200 x 200 cm ©YAYOI KUSAMA *

【図 16】鈴木康広 《日本列島のベンチ》2014/2021 年 ミクストメディア ©Yasuhiro Suzuki 撮影: 木暮伸也

* 草間彌生《ミラールーム (かぼちゃ)》(図 15) の図版掲載については、当館への掲載依頼後、別途各媒体から株式会社 草間彌生への使用申請が必要です。掲載をご希望の場合は、まずは当館までご連絡ください。

【原美術館 ARC について】

原美術館 ARC は、現代美術の専門館である原美術館（東京・品川、1979-2021）と別館ハラ ミュージアム アーク（群馬・渋川、1988-）の活動を集約し、2021 年 4 月に始動しました。青い空と深い緑に抱かれた豊かな環境での美術体験を特長としています。

「原美術館コレクション」は、運営母体である公益財団法人アルカンシエール美術財団理事長の原俊夫が財団設立時より収集した 1950 年代以降の世界の現代美術コレクションです。抽象表現主義やポップアートなど、20 世紀美術を彩った巨匠の絵画や彫刻から現在のアートシーンで活躍する作家の写真や映像作品まで多種多様な表現を網羅しています。

明治の実業家・原六郎（1842-1933）が収集した近世日本絵画、工芸、中国美術などを「原六郎コレクション」として所蔵しています。なかでも中国陶磁の真髄を伝える国宝「青磁下蕪花瓶」や浮世絵美人図の先駆けとなる重要文化財「縄暖簾図屏風」、円山応挙の大作画卷「淀川兩岸図巻」、永徳ほか狩野一門による「三井寺旧日光院客殿障壁画」が代表作です。

建築は、「建築界のノーベル賞」と称されるプリツカー賞を受賞した磯崎新（1931-2022）が手がけました。榛名山の峰々と呼応するピラミッド型の屋根が印象的なギャラリー A と前庭に向かい両翼を広げるギャラリー B、C は、現代美術作品の映える端正な空間です。一方、滋賀県・三井寺（園城寺）の旧日光院客殿の書院造に想を得て 2008 年に増築された特別展示室「観海庵（かんかいあん）」は、内部のいたるところに名工の技が光る静謐な和風空間です。

広々とした庭ではアンディ ウォーホル、オラファー エリアソン、李禹煥やイサムノグチなど、国内外のアーティストによる屋外作品を鑑賞しながらの散策もお楽しみいただけます。

開架式収蔵庫に保管している一部の原美術館コレクションは、学芸員や評論家、教育・研究機関に所属する方など主に美術の専門家を対象に作品の鑑賞・調査が可能となっています。また、原美術館 ARC メンバーの方には、毎月 1 回の庫内ガイドツアーを行っています。

大きな窓と高い天井が心地よいカフェ ダールでは、群馬県産の新鮮な食材を活かした特製サンドイッチやパスタなどのお食事や、丁寧にハンドドリップで淹れたコーヒーなどをご用意。展示作品をイメージした「イメージケーキ」もお召し上がりいただけます。

ザ・ミュージアムショップでは、当店オリジナル商品をはじめ、展覧会カタログや関連書籍、アーティストグッズ、デザイン小物やアクセサリなど、現代美術を暮らしに取り入れ、お楽しみいただける商品を取り揃えています。日本の伝統技術を感じさせるモダンな商品や、群馬県ゆかりの作家をご紹介しますなど、お土産やギフト、旅の話題を探すにもぴったりです。

原美術館 ARC では、メンバーシッププログラムを設けています。会員証のご提示で無料入館やカフェ、ミュージアムショップでの割引が適用される他、開架式収蔵庫ツアーなどのメンバー限定イベントへのご招待も。当館の活動をサポートしながら、様々な角度からアートを体験するプログラムにぜひご参加ください。

<https://www.haramuseum.or.jp/jp/membership/>



原美術館 ARC 外観



特別展示室 観海庵 内観



開架式収蔵庫



カフェ ダール メニュー例



ザ・ミュージアムショップ オリジナルグッズ



開架式収蔵庫ツアーの様子

【交通案内】

■電車・バスで



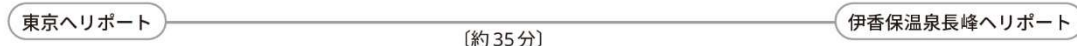
■ 高速バスで



■車で



■ヘリコプターで



※2025年3月現在。ご利用の際は運行会社の時刻表をお確かめください。

■電車利用の場合

★JR「高崎駅」西口より原美術館 ARC 行き直通バスにて約 1 時間(毎週第一土曜日運行)。

東京駅・上野駅から JR「高崎駅」にて、上越／吾妻線乗り換え、「渋川駅」より関越交通バス「伊香保温泉」または「伊香保榛名口」行き(3 番のりば)にて約 15 分、「グリーン牧場前」下車、徒歩約 7 分。または「渋川駅」よりタクシーで約 10 分。

【JR 乗換案内例】 * 2025 年 4 月現在。ご利用の際は時刻表をお確かめください。

上越・北陸新幹線(平日・土休日)

＜はくたか 553 号＞

東京駅 7:52 発→高崎駅 8:42 着／8:53 発[吾妻線 大前行]→渋川駅 9:19 着／9:25 発 関越交通バス[伊香保榛名口行]→グリーン牧場前 9:40 着

＜とき 317 号＞

東京駅 10:41 発→高崎駅 11:32 着／11:44 発[吾妻線 長野原草津口行]→渋川駅 12:08 着／12:14 発 関越交通バス
[伊香保温泉行]→グリーン牧場前 12:29 着

特急「草津・四万」

＜草津・四万 31 号＞＊土休日のみ運行

上野駅 9:00 発ー渋川駅 10:39 着／10:55 発 関越交通バス[伊香保温泉行]グリーン牧場前 11:10 着

＜草津・四万1号＞

上野駅 10:00 発ー渋川駅 11:36 着／11:42 発 関越交通バス「伊香保榛名口行」グリーン牧場前 11:53 着

＜草津・四万3号＞

上野駅 12:10 発ー渋川駅 13:50 着／13:55 発 関越交通バス[伊香保榛名口行]グリーン牧場前 14:06 着

■高速バス利用の場合

関越交通バス * 詳細は 関越交通バスのサイトでご確認ください。 <https://kan-etsu.net>

- ・伊香保四万温泉号 羽田線(東京駅経由) * 伊香保グリーン牧場前下車
- * 2025 年 5 月 6 日まで、11 月 1 日より再開予定
- ・吉祥寺-草津温泉線 * 渋川駅にて路線バスに乗り換え、伊香保グリーン牧場前下車

JR バス * 詳細は JR バス関東のサイトでご確認ください。 <http://time.jrbuskanto.co.jp/bk03010.html>

- ・上州ゆめぐり号 新宿駅⇔渋川駅・伊香保・草津温泉
- * 渋川駅にて路線バスに乗り換え、伊香保グリーン牧場前下車

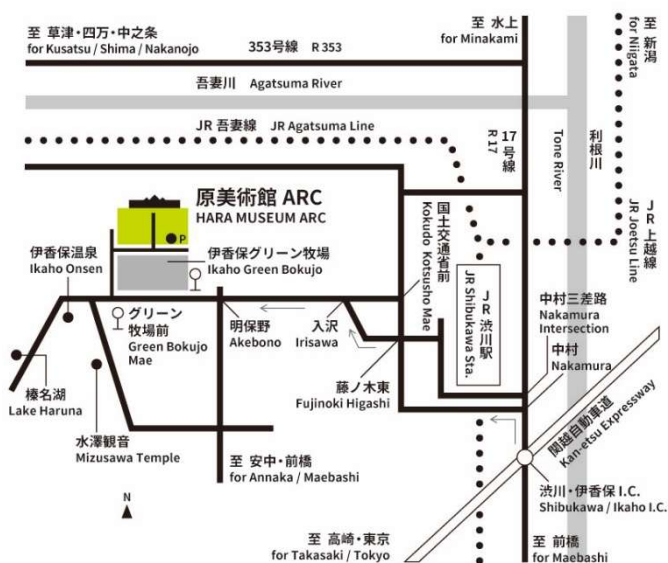
■お車の場合

関越自動車道「渋川・伊香保 I.C.」より 8 km、約 15 分。(無料駐車場 46 台、大型バス駐車場 2 台)

■ヘリコプターの場合

東京ヘリポート→伊香保温泉長峰ヘリポート 約 35 分、伊香保温泉長峰ヘリポートから当館までタクシーで片道約 10 分。

* 詳細は各ヘリコプターチャーター会社へお問い合わせください。



展覧会「トロイメライ」

お問合せ先: 学芸部 山川 (本展担当)、岩村

E-mail: press@haramuseum.or.jp Tel: 0279-24-6585 Fax: 0279-24-0449